

●第40回地盤震動シンポジウム●

2011年東北地方太平洋沖地震から何を学び、どう活かすか

—巨大地震に備えるための地盤震動研究（その2）—

＜主催＞日本建築学会 構造委員会 振動運営委員会 地盤震動小委員会

昨年3月に発生した東北地方太平洋沖地震は甚大な被害をもたらし、地盤震動研究や建物の耐震対策に関する検討すべき数多くの問題を提起した。地盤震動小委員会では、この地震から得られた教訓を整理し、今後の巨大地震への対応策を検討するため、「巨大地震に備えるための地盤震動研究」と題して、昨年度より連続シンポジウムを実施している。昨年度は「2011年東北地方太平洋沖地震で何が起こったか」と題して、今回の地震や建物被害の全体像を理解することを目的にシンポジウムを開催した。今年度も引き続き、この地震の震源、表層地盤における地震動増幅、距離減衰、長周期地震動ならびに建物の応答などの各特性について最新の知見を紹介する。さらに、本年度は地盤震動シンポジウム40周年であることから、これまで得られた知見を振り返るとともに、今後、検討すべき地震として南海トラフにおける巨大地震や首都直下地震を取り上げ、将来の地震被害の軽減に寄与する地盤震動研究のあり方や方向性について、広く議論する場としたい。

日時：2011年11月6日（火）10:00～17:30

場所：建築会館ホール

内容（各講演の題目はすべて仮題）

1. 主旨説明 10:00～10:15 : 久田嘉章（小委員会主査／工学院大学）

第一部 「2011年東北地方太平洋沖地震から何を学んだか」

司会：関口春子（京都大学）・鈴木晴彦（応用地質）

2. 2011年東北地方太平洋沖地震に関する最新の知見 10:15～11:55、13:00～13:40

2-1 震源モデルのレビュー、強震動生成領域の面積のスケーリング

: 佐藤智美（清水建設）

2-2 局所的に大きな記録の解釈

: 松島信一（京都大学）

2-3 仙台市内の地盤震動と地下構造との関係

: 大野 晋（東北大学）

2-4 表層地盤増幅に関する話題

: 藤本一雄（千葉科学大学）

2-5 M9に対応した新しい距離減衰式の開発

: 森川信之（防災科学技術研究所）

2-6 関東平野の記録の解釈

: 津野靖士（鉄道総合技術研究所）

2-7 首都圏における超高層建物応答から見た地盤増幅

: 永野正行（東京理科大学）

第二部 地盤震動シンポジウム40周年特別企画「過去に学び、どう活かすか」

司会：高井伸雄（北海道大学）・高橋広人（応用地質）

3. 40周年記念事業等に関する報告 13:40～13:50

: 加藤研一（小堀鐸二研究所）

4. 特別講演「今後の地盤震動研究へのメッセージ（仮）」 13:50～14:50

4-1 震源特性の評価に関連して

: 入倉孝次郎（愛知工業大学）

4-2 長周期地震動の評価に関連して

: 太田外氣晴（足利工業大学）

5. 大都市圏で予測される地震像 15:00～16:20

5-1 大阪平野の地盤震動特性

: 上林宏敏（京都大学）

5-2 南海トラフの地震による関東平野など大規模平野の地震動

: 吉村智昭（大阪大学）

5-3 首都直下の地震に関する震源断層から強震動予測の概要

: 額 額 一起（東京大学）

5-4 首都直下で想定される地震像について

: 遠田晋次（京都大学）

6. 総合討論「将来の地震被害の軽減に寄与する地盤震動研究のあり方（仮）」 16:20～17:20

司会：神野達夫（九州大学）・加藤研一（前掲）

7. まとめ 17:20～17:30

: 吉村智昭（前掲）

記録：元木健太郎（小堀鐸二研究所）

定員：200名（当日会場先着順）

参加費：会員5,000円、登録メンバー5,500円、会員外6,000円、学生3,000円*資料代3,000円含む

問合せ：事務局研究事業グループ 伏見